



Q. 高砂の花屋さん、有限会社TFCの中川三郎さんでございます。高砂のサブちゃんです。皆様、ばつと見られて、お花屋さんをしていらっしゃると思いませんか。

A. (ご本人)そこは見てのとおりかと思えます。

Q. とっても笑顔が愛らしいチャーミングなキャラかなと思いますが、そもそもお花屋さんをしようと思ったきっかけは?

A. 花屋を始めたのは先代の父親からです。

Q. それでは、お父様から引き継いで今は三郎さん一人でやってらっしゃる?

A. 嫁さんと母親ですね。ゴッドマザーと。

Q. どういうお客様が来られるお店ですか。

A. そうですね。昔からお世話になっているお客様が多いですね。年齢層が若干高い感じではございますが、お墓のお花から、ウェディングとかもさせていただいておりますし、あとは昔から続いております生け花の先生方に花材を卸したりとか。

Q. それでは、生け花の先生とかがお客様にたくさんいらっしゃるんですね。

A. はい、そうですね。大変お世話になっております。生け花に必要なようになってくるのは一般的なお花よりも、季節の花木だったりとかですね、それが本当に一番季節をあらわすものではないかと思っております。だいたいよく見かけるお花なんかは季節関係なく一年通して出回っているものが多いんですけども、枝物となるとそうはいかないところがありまして。

Q. そうですよ。中川さんは花屋さんていうのをちっちゃいころから見てこれたお仕事だと思えますが、現在ご自分はどんな思いでお仕事に取り組んでらっしゃいますか。

A. そうですね。今は市場に買出しに行くのは夜中から行って朝6時半から朝市があつてというわけなんですけれども、先代の親父がいる頃は屋市の時代もありまして…何年か前までは手競りで行われてましたけど、今はもう機械競りとかになりまして。お年寄りの花屋さんもタプレットとかを持ちながらですね、ピコピコピコピコやってますけれどね。

Q. ぴっと押して、入札みたいな。へー、すごい。

A. はい、そうですね。話ちょっとそれましたけれど、親父の頃は屋市で、それから夕方帰ってきて、荷物降ろして、明日の段取りをすると大体夜になるんですけども、小学校低学年ぐらいでしょうかね。僕が一人で二階にいて、9時とか10時ぐらいになると、「おーい!」て呼ばれてですね。「ごみ取れ!」言われて、ゴミ取りをして。なんかね、そういうことが普通やったんですね。生活の中で。葉っぱは取れ、とかね。そこから漠然と小さい時から、「僕はここにおるんやろうなあ」とずっと思っていましたね。

Q. お花屋さんの仕事としてはすごくきついというか朝市も然りですしお水も使いますし寒いし、というイメージがあります。やっぱりそうですね。

A. まあ、きついというのはどの職業でもついて回るものだと思いますけれども、まあ冬なんかは暖房は出来ませんし。夏は逆にクーラーを効かさない。人間は寒いですね。ずっと店舗内にいるとね。

Q. 嫁さん寒いやろうね。先日お伺いしたときにたくさんのお客さんが次から次へといらっしゃって、そしたらほんまに可愛い奥さんがニコニコしながら一生懸命お花を出されてたんですよ。奥さん結婚前はぜんぜん違う仕事やったんよね。

A. そうですね。独身の頃はJAに勤めてましたね。

Q. とところで、お花屋さんとして何か一度、小学校に行かれたという噂を聞いたんですけど…

A. はい。三年ほど前でしょうかね。校長先生から小学校6年生を対象にした職業体験で花屋さんとして参加お願いできますかと声をかけていただいて行かせてもらったんです。簡単に言うとバスケットにアレンジメントをつくってもらうんです。でもただ作るだけでは面白くない。僕が言うのも何なんですけれども、形うんぬんは別にええやろと。とにかくお花をさしてもらおうのを体験するにあたって、たとえばお母さんはこの花が好きかなとか、そういうのを一番考えてもらって、自分で好きに作ってくださいと。普段言えないことを、ちっちゃなメッセージカードに書いて、おうちへ持って帰って渡してね…そういう取り組みをさせていただいています。大事な人のことを思うきっかけになればなと思っています。

Q. それでは最後に今後どういう風にお店を広げていきたいなと思ってるらっしゃいますか?

A. はい、ありがたいことにですね、昔からのお得意様に支えられてやらしていただいているわけですが、若い頃は時代に取り残されるで…なんて思ってたんですが、今となってはですね、やっぱりそれがベースにあるから、商売をさせて頂くことが出来ていると思いますので、ベースにそれを置きながら、昔からの風習であったり、昔ながらのものに何かちょっと新しいことを加えていけたら…。高砂にもこんなところあったんか、みたいなのを目指していきたいなと思っています。



店舗情報

(有)ティー・エフ・シー

住所: 高砂市高砂町農人町1799-1
TEL: 079-442-1534
営業時間: 9:00~19:00 (月~土) / 9:00~18:00 (日曜日)
定休日: 不定休

公開インタビューへ参加したい&自分のお店を知ってもらいたい方は是非ご連絡ください!

皆さん、お店や店主の事、少しは知っていただけましたでしょうか。誌面にはほんの一部しか掲載できず、公開インタビューではもっと深〜いお話がいっぱい!! 是非お店に足を運んでいただき、店主や商品の魅力に触れてみてください。なお、当部会ではこれからこの事業を行ってまいりますので、次回の公開インタビューには是非会場にお越しください。また、「ウチの店を知ってほしい!」「こんな商品あるんやで!」等、自分のお店を紹介したい「○○屋さん」はご連絡下さい。(応募者多数の場合は、こちらにて決定させていただきます。ご了承ください。)

商業部会 Vol. 03

2019.1.1 発行

目次

- インタビュー紹介 (株)曾根鋳造所
- 古門電気商会
- 前田写真館
- (有)ティー・エフ・シー

もっと知りたい! あの店!この人! 通信



写真:中央(公開インタビュー前の一コマ)インタビュー前の部会の方々。緊張されています。写真:右(インタビュー中の一コマ)終始和やかな雰囲気です。写真:左(インタビューを終えて)無事インタビューを終えて緊張がほぐれた瞬間です。



11/6 第3回公開インタビュー実施しました!

去る11月6日(火)、高砂商工会議所 大会議室におきまして、商業部会「もっと知りたい!! あの店!この人!」第3回公開インタビューを実施しました。

第3回目となる今回は、新たな試みとして「何とか屋」、またその地域の事をよく知っておられる方に「何とか屋」が地域に果たしてきた役割など、

インタビューする人

村角 美紀
T.C.C.ほっとすまいる代表
高砂商工会議所 青年部所属
ライター/イベント司会
マナー講座、話し方レッスン講師

お話を伺うことといたしました。今回お話をいただいたのは、(株)曾根鋳造所 会長 圓山 善輝 氏(73歳)で「いい人いい町 曾根の町」と題し、圓山さんからの『堅苦しくならないよう、気楽に…』とのご要望で、曾根の「何とか屋」や町についてざっくばらんにいろいろと「おしゃべり」していただきました。

まず初めに「曾根」という地名の由来や歴史、昭和20年代半ばから30年代にかけて、圓山さんが幼い頃を過ごした賑わいのある曾根の町をご紹介します。

『私は曾根の町の中心 南之町で育ち、通りには、煙草屋、製麺屋、お茶屋、文具屋、魚屋、八百屋、散髪屋、風呂屋、うどん屋、駄菓子屋、お好み焼き屋、饅頭屋があつてね、当時にくてんが5円、しのだうどんが20円、小遣いが1日10円やったかなあ…』と当時を懐かしむ。しかしその後、『町の賑わいがなくなった理由は、経営者の高齢化や昭和29年に高砂市となつてからは企業誘致が盛んになり、商売人の跡取りも企業に就職して、サラリーマンになったり、車や家電品が普及したため、何処へでも買い物に行けるようになったり、女性が働きに行き、その帰りに職場の近くで買い物をするようになったのが原因ではないか。対面販売で世間話をし、人の交流がたくさんできたのが「何とか屋」であつたが、物が氾濫する中で地域に住む人の心が廃れてきたのかあ。』と語られた。

最後に『商工会議所には現在残っている「何とか屋」がこれからも持続できるよう、商業部会を中心に支援していただきたい。また買う側も『何とか屋』に足を運び、売る側もお客様のニーズに応えるよう努力していただきたい。』と参加者それぞれにエールを送っていただき、締めくくられました。

圓山さん、大変貴重なお話ありがとうございました。



商業部会について

高砂商工会議所では、会員様が営んでいる主要な事業の種類ごとに、7部会が設置されています。そのなかで商業部会は、各種商品の卸売業、小売業等を営む約330会員が所属する部会です。それぞれの部会が、事業の適切な改善発達を図るため、部会事業を積極的に展開しています。

商業部会においては、高砂の魅力ある個店を広く発信し、地域商業の発展を図るため、今回のインタビュー事業を実施しました。今後も会員相互の発展につながるような事業を企画していきますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いたします。

連絡先

高砂商工会議所 商業部会事務局 担当:中村/澤田
兵庫県高砂市高砂町北本町1104 TEL.079-443-0500 FAX.079-442-0369 HP.http://www.takasago-cci.or.jp/



曾根の電気屋さん

古門電気商会
古門 秀敏 氏



Q. いきなりですが、古門さんはおいくつですか？

A. 誕生日が来て、43歳です。

Q. いつから、このお仕事をされていらっしゃるんですか？

A. 22ぐらいからです。おじいちゃん、お父さんの代からで3代目になります。僕は男ばかり3人兄弟の長男で、特に商売を継ぐという気持ちはなかったんですが、大学受験の失敗もあり…そんな折、阪神淡路大震災が起って、1年位復旧作業をしていたんです。それからナショナル(現パナソニック)から修行に来ないかと声を掛けられ、エアコンの設置等を習ったり…しばらくして母親が亡くなり、父と一緒に商売をするようになりました。

Q. 今は、お一人で商売されている？

A. 10年前に父が亡くなったので、一人です。

Q. 電気屋さんの内容としては電化製品の販売？それとも電気工事？

A. パナソニック製品の販売もしていますが、工事もしています。

Q. 取引先は？

A. 個人のお宅や工務店さん、工場や病院など、以前からずっとお付き合いさせていただいている方ですね。

Q. お客様から電話をいただいて出向くという感じですか？例えばどんな要件で？

A. そうですね、台風の時はアンテナの調子が悪い、夏場になるとエアコンのききが悪いとか、コンセントが壊れたなど、いろんな事があります。あと工務店さんになるとこういった工事をするのでしてもらえないかというものであったり…

Q. 一般のお客様からすると、細かいサポートをして頂けてありがたいですね。では今、電気屋さんの仕事をどんな思いをもってされていますか？

A. 私がそんなに営業をしなくても仕事をいただけているのは、お父さん、お母さんのお蔭であり、有難く思っています。僕には娘(二人)しかいないので、親の顔に泥を塗らないように、僕の代できっちり終えられたらなと思っています。

Q. 仕事をしていて、楽しい、また充実しているなど感じる瞬間はありますか？

A. 簡単な仕事でも難しい仕事でも、ほぼ自分一人でするので、仕事を終えた後は達成感があります。

Q. 後継者といったことでお悩みの事業主の方もいらっしゃると思いますが、先程もお話がありました古門さんは今後どうされるのですか？

A. 僕の代で終わるつもりです。電気屋さんは大変なので、娘がもしするとしても勧めません。

Q. 一人でやってらっしゃって、困ることはないですか？

A. 困るのは、冷蔵庫や洗濯機を運ぶ時です。

Q. そんな時はどうするの？

A. 嫁さんと子供に手伝ってもらいます。

Q. お金を渡して？

A. いえ、スタバ(スターバックス)1杯で…

Q. ええ子やね～。それはきっと古門さん自身が子育てにしっかり携わっているからなんでしょうね。

ところで休日の過ごし方は？例えば趣味とか。

A. 卓球をやります。

Q. 卓球といえば、つい先日、Tリーグが発足しましたねえ。Tリーグに出るんですか？

A. いえ、出ません。(笑)高砂市の総合体育館で12月は女子、2月には男子の大会があり、水谷選手やチョレイの張本選手も来るんですよ。

Q. へえ～。ではご自身はどれくらいのスパンでやってらっしゃるの？

A. 週に3回くらいです。月曜と金曜、それと木曜日は高砂市卓球協会が高砂市周辺の小中学生を対象に高砂中学校の卓球台を借りて2時間程度指導も兼ねてやっています。また平均して月に2回ほどは試合にも出ています。先日、尼崎でインカレが開催され、関西大学で活躍している同じチームの先輩の子供さん(伊藤美誠選手の練習パートナーもされているそうです)の応援に行ってきました。

Q. 練習するのも見るのも楽しいし、教えるのも楽しい…お仕事の電気工事プラスご自身のライフスタイルの中に卓球があるわけですね。

ところでご商売をしていくにあたって心掛けていることは？

A. 自分の代で商売は終えようと思っているので、事務所の設備にお金をかけたりせず、請求書等も以前のまま手書きであるし、商品や材料なども必要な分だけ注文し、在庫をかかえないなど、『無駄をしない』よう心掛けています。

(場内)ご自身は幼い頃から電気屋さんをするというイメージがあったのでしょうか？

A. いえ、なかったですね。震災復旧作業の後、修行に行くようになったくらいからです。修行を2年位したあたりでお母さんが亡くなり、家業を父親と二人でするようになったのですが、その時は父親に甘えて、今思えば本当にいいかげんな仕事っぷりだったと思う。その後、父親が癌を患い余命を知った途端、スイッチがカーンと入り、必死でいろんな事を勉強しました。



店舗情報

古門電気商会

住所：高砂市曾根町2240-2
TEL：079-447-5325
定休日：日曜日

伊保の写真屋さん

前田写真館
前田 尚夫 氏



Q. 伊保の写真屋さんということで、写真屋さんというと写真スタジオがあって、お客様が写しに来られるような感じでしょうか。

A. そうですね。はい。記念写真を写したり、ちょっと前ですとフィルムを持ってきて写真を現像する、というような…かなり前の話ですが。あとはまあ、七五三とかの記念写真だったり、学校関係のアルバムとか、証明写真とかですね。

Q. いろんな記念日ごとの写真などあると思うんですが、店に来られて撮るのももちろんですが、例えばご自身が外に出て撮る、みたいな事もありますか？

A. はい。学校関係とかはそうですね。アルバム用の写真を撮ったり、修学旅行とかにも一緒に行つて…

Q. 私のイメージでは言うことを聞かなそうな子供が多そうなイメージがあるんですがそうでもない？

A. ああ、小学生くらいの子はまあまあこんなもんかなあ、という感じですね。学生が変わったんか僕が変わったんかわからんですけども、高校生くらいになると最近はどう人種が変わったような感じがします。ついていけません。

Q. まだ小学生のほうが「おっちゃん写真とってー」という感じで？

A. ええ、言うこと聞かへんのは昔から一緒やし。まあ、小学生も大人びたような気がします。最近では先生方がちょっと変わってきたかな。昔は「俺について来い」という感じの方が大勢おられましたけど、今はモンスターペアレントやなんやかんやと…横で撮影していても大変そうやなあと思いますね。

Q. 私も子供がいますので、今は写真を撮ったら駄目という人は、先に言ってくださいねというのがあつたりするって。

A. あるみたいですね。学校のホームページに載せるから、写りたくない子は言うておいてね、という話を先生方がされてますね。まあ、聞いた話では、DVというのとかあつてですね、子供を隠さなければならぬというような、複雑な状況というものもあるみたいですし、いろんなことがありますね。

Q. そもそも、どういった経緯で写真屋になられたんですか？

A. 男三人兄弟で僕が一番下なんですけど、上から順番に逃げていきました。『お前が継ぐんだ、お前が継ぐんだ』と小さい頃から刷り込まれました。

Q. 他の商売をやるうとか違う夢はありましたか？

A. まあ、刷り込みがあつてそのまま写真やおもちゃのカメラで遊んできたから、そのままできましたけど、やりたいことやつたら旅行関係に行きたかつたかな。



Q. 普段どういった旅行をされるんですか？

A. 最近バイクでうろろろしてます。ハーレーに乗って…。昔、高校生の時やったかな。映画見てね。ピーター・フォンダが出てるやつですね。見て憧れちゃいましてね。その時分からバイクは乗っていたんですけども。

Q. どのなとこ行かれるの？

A. まあ、会員制の別荘みたいなのが琵琶湖のところにありますが、そこへ泊で行ったりとか、最近ではちょっと足を伸ばして九州の指宿まで行ってきたんですが、訳のわからぬ台風に追いかけて大変でした。

Q. その時は、大きなカメラ持って、パジャ、パジャって色んなところ撮るんですよ？

A. 撮らないですね。大きなカメラは邪魔になりますから、まあ、かつこよく言ったら、「こんな小さなカメラでもうまいこと撮れるんだぞ」と言いたいところですけども…

Q. 今の一番の悩みとありますが、昔と違って今はこうだな、みたいなところって

ありますか？

A. やっぱデジタルでしょうね。電話で写真撮れますからね。それもきれいな写真がね。それもプリントしないし。

Q. プリントしないですね。そもそも今は携帯のことをカメラって言っちゃったりしてます。披露宴の司会などでカメラをどうぞ出してくださいって言ったときに出すのって皆さん携帯じゃないですか。めっちゃ凄いいライバルでは？

A. ライバルではないですね。憧れの的かな。置いてけぼりですわ。

Q. 今後写真館をやっていく中でこんなことやってみたいなというようなことがおありでしたら教えてください。

A. スタジオをレンタルする、貸しチャウというのも有りかなあ。一応スタジオ設備は完備してるんですが、そんなことをチャラッと考えているんですけどね。僕自身デジタルがよくわからんから、そういうのをよくわかつた人がやってくれへんかいなと思ったりもしますけどね。まだ構想中ですけども。

Q. 新しいものが出てくる中で、例えばお客さんにこういう風にしてほしいなとかいうのはありますか？

A. やっぱ写真は紙で残しておいてほしいというのはありますね。ちょいちょいやっちゃうんですけども、デジタルは一瞬にして消えちゃったりということがあつたりするんで。毎年とは言わないまでも五年に一回とか家族の写真があつたら、あとで振り返ったときにその時の記憶が蘇るお手伝いができるんちゃうかなと思ってるんです。いろいろ家族も状況が変わっていくので、ずっと続けるのは難しいけれども、一瞬一瞬を振り返ることでその前後を思い出せるというか。いろんな日にうちで撮ってもらえたら有難いですけれども、よう自分からプレゼンせんのですわ。



店舗情報

前田写真館

住所：高砂市伊保港町1-7-32
TEL：079-448-1130
営業時間：9:00～18:00(平日) / 9:00～12:00(土曜日)
定休日：日曜日